

自然が私の先生です。

自然の風景や草花をこよなく愛し、その姿を長年描き続けている画家の橋本守男さん。みどりの協会発行の冊子にも美しい花のイラストを描いていただいたり、公園のイベントでもその手法を披露するなど、さまざまな形でご協力いただいています。

橋本さんに、創作活動について、日頃から感じている自然について、お話を伺いました。

創作に悩み中断、そして再び絵の世界へ
絵を描き始めたきっかけというのは、今思えば小学校の時にほめられた、ということからだったでしょうか。六年生の園工の時間に写生があつて、絵をほめられたんです。子どもだからほめられればうれしくてね。でもそれからずっと絵を描いていたわけではありませんが、で、中学に行つてまたほめられた。それで高校に入つてからは学科そつちのことで、夢中で石膏デッサンをしていました。その後いろいろあつた中で、やはり画家にならうと版画の若山八十氏先生や油絵の牛島憲之先生に師事しました。一時、具象画から抽象画へと転向したり、模索しているうちに行き詰まったこともあつて絵を中断してしまつたんです。
絵をやめて、記録映画や教育映画をつくっている製作会社に就職し、映画の制作に携わりました。絵から映像の世界へ入つたわけですが、後にその出版部門とのつながりから、カレンダーの絵を描くことになり、それがきっかけとなつて、定年前に退社して再び絵の世界に戻りました。



ナススタチウム 紙に水彩 (協会発行「園芸豆図鑑」ハープ、表紙に掲載)



丹沢・三ノ塔を前に100号のキャンパスにむかう橋本さん

画も水彩で描きますが、正確さ、緻密さも要求されるのでデッサンの勉強になります。とくに花は刻々と姿を変えるので時間との勝負です。水彩に比べ油絵の方はそんな細かい作業はしないし、主観が入るから構図も実際と違う。やはり感性で描くものだと思います。

山が好きで、丹沢の風景はもう二十年間描き続けています。生まれ育つたのが栃木県の壬生町というところで、身近に自然はたくさんありましたが、ごく平坦な環境でした。だから憧れの気持ちがあるんだと思います。南アルプスにも描きに行きます。夏はテントを持ってキャンプしたり、冬は旅館に滞在するなどしますが、体力的にも一週間が限度なんです。そんな時は、山の近くに住んで描けたらなと思いますね。
風景や草花など自然を描く時には、100号の大きいキャンパスでも持って通います。冬は寒さ、風も吹けば雪も降る。そんな厳しいの中に自然はあるわけですから、私自身もその自然に身を置いて描きたいんです。生きていくもの、生命感がひしひしと伝わってきて、自然は本当にすごいと感じさせられますね。偉大な自然を目のあたりにすると、うまく描いてやるうとか、人に見せるため、とかいう奢りを捨てないと描けないですね。色を出そうとしたら自分の力では限りがある、自然が生み出す色にはとうていかなうわけありません。そうして自分を捨てると自然の色を覚えてくれるんです。構図にしたらどうです、自然から教わることは多い。まさに自然が私の先生なんです。

人工的なものにも美しさや憩いがある
市内の公園にもよく描きに行きます。麻溝公園も花が多いのでよく来ます。周辺の風景もずっと描いています。移り変わらなくなってききました。以前描いた自然がなくなつて残念なことです。でもそれはここに限つたことではなく全国いたるところで起きていることです。私が山を描きに行っている丹沢や長野や山梨にも言えることです。だんだんと風景が変わつていく。
もちろん悪いことばかりではありません。利潤を考えれば開発を頭から否定することはできません。人的に整備された公園の方が、街に住む人の憩いが得られることもある。造られたものが、都市の中では美の基準に合っているというところもあります。だからといってやみくもにせず、そこに存在する生命を、ちよつとも立ち止まって思いやっしてほしいですね。



橋本 守男 (はしもと もりお)
一九三六年栃木県生まれ。画家。さがみ美術協会・養野美術協会会員。さがみ美術協会展・大賞市長賞、養野市長賞、教育長賞はじめ数々の賞を受賞。油絵の創作をはじめ、図鑑カレンダー・イラスト、月刊誌「短歌」角川書店の表紙絵、個展の開催、水彩画講師、公園主催のイベントへの協力など、幅広い活動を展開している。

初夏の風にゆられて。

公園のフェンスを色とりどりに飾るクレマチス。その数なんと200種類、7000株にもおよびます。国内でここまでクレマチスを一堂に集めたところはほかにありません。おそろく、世界各国探してもないだろうといわれます。今、初夏の風につけて美しく咲きそらいます。日本一、いえ世界一のクレマチスを、ぜひ見に来てください。



さがみはらグリーン

GREEN

平成9年4月29日発行
編集・発行：財団法人相模原市みどりの協会
発行所：〒228 相模原市麻溝台2317番地の1 市立相模原麻溝公園内
財団法人相模原市みどりの協会 ☎0427 77 2860

Vol.10

財団法人相模原市みどりの協会機関紙

クレマチスフェア'97

市立相模原麻溝公園

5/10 ± 18日



窓辺に花を、くらしに緑を、街に緑を。財団法人 相模原市みどりの協会では、緑ある豊かな街づくりを推進するため、さまざまな事業を展開しています。この一年を通じて行われる活動内容をご紹介します。



財団法人 相模原市みどりの協会
平成9年度事業概要

公益事業の部
1. 緑化意識の普及啓発に関する事業

「市の花アジサイ普及事業」
障害者地域作業所で育成した「アジサイ」の挿し木苗を、相模原麻溝公園アジサイフェアにおいて市民に無料配布しています。

「クレマチス普及事業」
相模原麻溝公園の代表的な花として親しまれている「クレマチス」の普及を図ります。

「生垣見本園」事業
緑化センター内にモデル生垣を設置。生垣の作り方や手入れ方法などを紹介しています。

「花と植木に関する園芸相談」
地域に密着した園芸教室を開くことにより、花や樹木の理解を深めてもらうため、協会と公民館の共催事業として実施しています。

「みどりの少年団」の育成
緑に親しみ、緑を守り育て、緑を愛する精神は、少年期から養うことが大切です。本協会の支援を受けて平成5年2月14日に市子ども会育成連絡協議会の組織のひとつとして相模原市みどりの少年団が結成されました。本協会は、公園、緑地等を利用しての緑に関する学習会活動、奉仕活動、レクリエーション活動などの「みどりの少年団」活動を支援し、育成を図っています。

「花のふれあいサービス」
花による心のふれあいの輪を広げるため、季節の花にメッセージをそえて市内の老人ホームに届けます。あわせて横浜銀行相模原駅前支店等の協力を得て店内に展示し、市民の方に親しんでいただきます。

「緑と花のスポットガーデン」事業
相模原麻溝公園センター広場にフラワースタンド(27基)を設置して、四季折々の花を入園者に鑑賞していただきます。

2. 都市緑化の推進に関する事業

「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」
自治会、子ども会、幼稚園等を対象に花の苗、球根、苗木等を配布し、花のまちづくりを進めます。

「生垣設置助成」事業
地域緑化活動の一環として、身近な「みどり」である「生垣」を新規に設置する場合に奨励金を交付して、都市緑化の推進を図ります。

「フラワーロード事業」
「横浜水道みち」にコスモス等の花を市民の手により育ててゆくことで、都市緑化の推進を図ります。

「みどりのバンク」事業
樹木や草花、種、苗などの「みどり」を譲りたい者、譲り受けたい者の相互の情報を提供しています。
みどりの協会事務所(相模原麻溝公園管理事務所)に「花とみどりのインフォメーションボード」を設置し、みどりのバンク情報コーナーを設けています。

生垣見本園



夏休み親子自然観察会(河口湖)



クレマチスフェア



フラワーロード事業



3. 機関紙その他印刷物の発行

「緑化啓発ポスター」作成
4月(春のみどりの月間)、10月(秋のみどりの月間)の年2回緑化啓発ポスターを作成し、自治会などの協力で掲示しています。

協会紙「グリーン」の発行(第10号・11号)
協会が実施する緑化事業の紹介や、都市緑化に関する情報を掲載する機関紙を発行しています。

園芸豆図鑑の発行
園芸植物についての由来や育て方、品種等を写真も入れて解説したパンフレットを発行しています。

4. 講習会、講演会、展示会、その他催し物等の開催

「夏休み親子自然観察会」の開催
親子で公園等の自然観察をすることにより、花や緑との親しみを深めます。

「園芸講習会」の開催
県立相模原公園「緑の相談所」との共催事業として、園芸に関する講習会を実施します。

「公園フェア」等への参加事業
相模原麻溝公園「クレマチスフェア」など、市内の公園や緑地で実施される市主催の行事等に協会として参加し、協会のPRおよび緑化意識の高揚を図っています。

5. 市街地の緑地および緑地保全地区の保全に関する事業

「木もれびの森」美化運動
相模原近郊緑地特別保全地区内の樹林地(木もれびの森)の清掃を、自治会、学校、PTAの協力で実施します。

緑地等保全啓発事業
市内に残された緑地を将来にわたり保存し、有効に活用して行くための啓発事業を実施しています。

6. 公園施設等の受託事業

相模原市から公園緑地等の管理を受託し、市民のニーズに応え、公園緑地等の利用サービスの向上を図るなど適正な管理を行うものです。

収益事業の部

売店・自動販売機等の経営

相模原麻溝公園内に売店を設置し、公園を利用する方の利便を図ります。

平成8年度寄付団体

平成8年度は(財)相模原市みどりの協会に対し、次の団体より寄付をいただきました。
社団法人相模原青年会議所
三菱重工業株式会社相模原製作所

'97アジサイフェア

6月14日(土)・15日(日)

《相模原麻溝公園》

市の花としてもなじみ深いアジサイの花。その色彩は、梅雨空のうっとうしい気分を晴れやかにしてくれます。親しみのある種類からめずらしい野生種まで、いろんなアジサイの顔に会いにきてみませんか。
また、フェア期間中は、コンサートやアジサイの苗の配布なども行っています。

山野草展示会

5月3日(土)~5日(月)

《相模原麻溝公園管理事務所ホール》

その素朴さと可憐さが、見る人の心をうつ山野草。ふだん目にとめなかつた草花とゆっくり語り合える展示会です。

月	日	講習内容	月	日	講習内容
5	18	観葉植物の殖やし方実習と作り方	7	7	家庭果樹の剪定の仕方と肥料
	25	作りやすい山野草		12	14
6	8	夏の花鉢の管理	21	21	正月を飾る松竹梅の作り方
	13	秋のハーブの育て方・楽しみ方		11	11
7	27	押し花の作り方	1		18
	3	押し花の作り方		25	25
8	17	家庭菜園秋の播きつけ	8		8
	7	大菊の秋の管理		2	15
9	14	秋の球根の植えつけと草花の種まき管理	22		22
	21	初歩の盆栽実習		8	8
10	28	ポタン・シャクヤクの育て方	3		15
	5	秋の山野草 (展示会とタイアップ)		29	29
11	16	庭木・花木の秋の手入れ	上記の教室は予定のため変更になることがあります。毎月の「広報さがみはら」で、事前にご確認のうえ、お問い合わせください。		
	23	シクラメンとシャコバサボテンの上手な管理			
30	9	福寿草の鉢づくり			
	16	園芸のための土作り・堆肥作り			

ハナモモ

ハナモモとは、採果用のモモに対し、花を觀賞するモモの品種の総称です。麻溝公園内にある種類は、幕性ハナモモといえます。これは、神奈川県が育成し、農林水産省に品種登録をしている照手シリーズのなかのもので、枝が横に伸びず、幕を立てたような形をしています。花色に、紅、桃、白と変化が多いのもハナモモの特徴です。

「生け垣」の設置に対して助成をします

生け垣が作り出す緑の壁は、ブロック塀にはない、うるおいある緑豊かな空間を作るだけでなく、地震や火災などの災害時には延焼防止の役割も果たします。この機会に自宅の塀やフェンスを生け垣にしてみませんか。

(財)相模原市みどりの協会では、生け垣を設置する人に奨励金を交付しています。

対象
次のすべてに該当すること。
市内の戸建て住宅(店舗併用住宅も可)の用地内に新たに生け垣を設置すること。
その土地が幅4メートル以上の公道に接していること。
生け垣の長さが3メートル以上であること。
植栽の基準
樹木の種類は生け垣に適したもので、原則としてみどりの協会が推奨するものとします。また、樹木の高さは90センチ以上で、本数は1メートルあたり3本以上です。
奨励金額
1メートルあたり5000円で、10万円を限度額とします。
手続き
みどりの協会、みどり対策課、各出張所にある申請書でみどりの協会へ。案内書も同所にあります。
お問い合わせは
(財)相模原市みどりの協会(相模原麻溝公園内 TEL0427-77-2860)へ。

新たに生け垣を作る人が対象で作り替えは対象となりません。奨励金を受けるには事前に申請をし、交付決定を受けなければなりません。

緑とついでに街づくり